

国立国語研究所学術情報リポジトリ

50年前の北見市常呂町岐阜方言に見られる特徴

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 北海道方言研究会 公開日: 2024-03-13 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 朝日, 祥之 メールアドレス: 所属:
URL	https://repository.ninjal.ac.jp/records/2000214

50年前の北見市常呂町岐阜方言に見られる特徴ⁱ

朝日祥之

国立国語研究所

0. はじめに

発表者は、2013 年より北見市常呂町で使用されている方言に関する調査研究を実施している（朝日 2021, Asahi 2015）。本研究会においても、第 209 回、第 225 回の例会でその成果の一部について報告してきた（朝日 2014, 2020）。その後、新型コロナウイルス感染症の影響を受け、現地での調査を実施することができなくなった。当然オンライン形式による調査実施の可能性も検討したが、現時点で発表者が構築している現地の話者たちのメディアリタラシーを踏まえると、やはり対面での調査を行うのが望ましい。したがって、発表者としては、2022 年度の早い段階で対面での調査を実現させる可能性を探っている。

他の多くの研究者と同様、この機会にこれまで収集してきた資料の整備を進めることとした。本発表では、その資料の一部を使用し、北見市常呂町岐阜方言（以下、常呂町岐阜方言と称する）。の特徴を示す。以下では、1 節で北見市常呂町の概要を示し、2 節で整備を進めた資料を紹介する。その後、3 節で発表者が常呂町岐阜方言の話者（1940 年代生まれ）に対して実施した活用体系調査の結果を示した上で、2 節で示した資料に確認された言語的特徴を示す。4 節で本発表のまとめと今後の課題を述べる。

1. 常呂町の概要

常呂町は網走支庁管内の町だったが、2006 年の市町村合併により北見市に編入された。現在は北見市常呂町である。常呂町は 1883 年に開基され、その後各地からの移住者によって町が形作られた。2020 年時点で常呂町には 3,553 人が居住している。常呂町には 19 の地区があるが、本研究が対象とする岐阜地区は常呂町全体の地区の中でも人口の多い地区である。人口は 2015 年時点で 321 人である。岐阜地区に最初の入植があったのは 1898 年のことであり、この地区は最も古い地区の一つである。



図 1 北見市常呂町岐阜地区（発表者撮影）

2. 本発表で用いる資料

本発表では以下に示す資料を用いる。1983 年代に現地で収集された口述資料の書き起こし資料である。

林不二夫（編）(2002)『常呂町の昔話 2』

常呂町郷土研究同好会

- ・ 岐阜地区の話者（3 名,共に明治 30 年代の生まれ）による口述資料（「岐阜団体入植の頃の四方山話」）（音声資料の所在は不明）

「美濃弁を何らかの形で残したいと思っていましたので、3 人の話に手を加えず、そのまま忠実にかいたつもりです」(p.1)



3. 常呂町岐阜方言の特徴

本節では、先にあげた資料に見られる特徴を取り上げる。その出発点として、朝日(2021)によって示された、動詞の活用形、形容詞・形容名詞述語・名詞述語の活用一覧を表 1・表 2 にそれぞれに示す。この活用形は常呂町岐阜の生え抜き話者（男性・1942 年生・4 世）への聞き取り調査データに基づく。調査は 2018 年に実施された。

表 1 常呂町岐阜方言の動詞活用形一覧(朝日 2021)

		多段型 書く	一段型 見る	来る	する
終 止 類	断定非過去	カク	ミル	クル	スル
	断定過去	カイタ	ミタ	キタ	シタ
	命令	カケ	ミヨ	コイ	シレ
		カキンサイ	ミレ	キンサイ	セー
		カキナサイ	ミンサイ	キナサイ	シンサイ
			ミナサイ		シナサイ
禁止	カクナ カキンサンナ	ミルナ カキンサンナ	クルナ カキンサンナ	スルナ カキンサンナ	
意志	カコー	ミヨー	コヨー	シヨー	
推量	カコー	ミヨー	コヨー	シヨー	
	カクジャロ	ミルジャロ	クルジャロ	スルジャロ	
	カクヤロ	ミルヤロ	クルヤロ	スルヤロ	
接 続 類	連体非過去	カク	ミル	クル	スル
	連体過去	カイタ	ミタ	キタ	シタ
	中止	カイテ	ミテ	キテ	シテ
	仮定	カケバ	ミレバ	コエバ	スレバ

派 生 類	否定	カカン	ミン	コン	セン
	丁寧	カキマス	ミマス	キマス	シマス
	使役	カカセル	ミサセル	コサセル	サセル
	自発	カカサル	ミサル ミラサル	コササル コラサル	ササル サラサル
	受身	カカレル	ミラレル	コラレル	サレル
	可能肯定	カケル	ミレル	コラレル コレル	《デキル》
	可能否定	ヨー カケン ヨー カカン	ヨー ミレン ヨー ミン	ヨー コラレン ヨー コレン ヨー コン	《ヨー デキン》 ヨー セン
	尊敬	カキンサル	ミンサル	《オンサル》	《ナサル》
	継続	カイトル	ミトル	キトル	シトル
	希望	カキタイ	ミタイ	キタイ	シタイ
	のだ	カクンジャ	ミルンジャ	クルンジャ	スルンジャ

表 1 は、動詞のタイプにより、それぞれの文法的意味による活用形を、表 2 は、形容詞、形容名詞述語、名詞述語のそれぞれについて、文法的意味による活用形をそれぞれ示している。詳細は朝日（2021）に譲るが、表 1・表 2 から、常呂町岐阜方言の活用体系の俯瞰を得ることができる。表 1、表 2 から、常呂町岐阜方言の特徴として、北海道方言の特徴（自発の「カカサル」「ミサル」など）が認められる一方、岐阜地区の郷里方言である美濃方言の特徴（否定辞の「ン」、尊敬の「ンサル」、継続の「トル」指定辞の「ジャ」、音便形「アカナル」「アカナイ」）などの使用も認められる。

表 2 常呂町岐阜方言の形容詞・形容名詞述語、名詞述語 活用形一覧(朝日 2021)

		赤い	静か(だ)	学生(だ)
終 止 類	断定非過去	アカイ	シズカジャ	ガクセージャ
	断定過去	アカカッタ	シズカジャッタ	ガクセージャッタ
	推量	アカジャロ	シズカジャロ	ガクセージャロ
接 続 類	連体非過去	アカイ	シズカナ	《ガクセーノ》
	連体過去	アカカッタ	シズカジャッタ	ガクセージャッタ
	中止	アカテ	シズカデ	ガクセーデ
	仮定	アカケリヤ	シズカナラ シズカジャッタラ	ガクセーナラ ガクセージャッタラ
派 生 類	否定	アカナイ	シズカジャナイ シズカデナイ	ガクセージャナイ ガクセーデナイ
	なる	アカナル	シズカナル	ガクセーニナル
	丁寧	アカイデス	シズカデス	ガクセーデス
	のだ	アカインジャ	シズカナンジャ	ガクセーナンジャ

先にも触れたが、表 1・表 2 は発表者が 2018 年に現地で実施した聞き取り調査にもとづく。2 節で取り上げた資料はこれより 35 年前に収集されたものである。同様に話者の生年も 40 年の違いがある。この違いにより常呂町岐阜方言にどのような差異が生じるのかを考察する。

以下では、2 節で挙げた資料の中に出現する活用形について、美濃方言との関係の深い項目（否定辞の「ン」、尊敬の「サル」、継続の「トル」指定辞の「ジャ」）について、資料での使用例と共に示していく。また、使用例に基づく定量的分析も可能であるが、次回以降の発表の機会に譲る。

3.1. 否定辞

表 1・表 2 から常呂町岐阜方言の否定辞は動詞では「ン」形容詞・形容名詞・名詞で「(ジャ) ナイ」である。また、朝日(2021)では、否定辞に関われる活用形として

断定過去・連体過去形 ミンカッタ、ミナンダ

推量 ミンジャロー

中止形 ミンデ

仮定形 ミンカッタラ、ミナンダラ

をあげている。これらの否定辞がこの資料でどのように使用されているのであろうか。資料からここにあげられた形式は資料に使用が認められた。その一部を示す。

- (1) そうじゃろう、うちの敏も蛇をおそがらんで、ちょいと掴んでターと横の方に投げていったもんだ。(1983_tokoro_gifu_001_9 へんぴ (蛇) の話_0031)
- (2) モンペを何で習わんかったんじゃろう。(1983_tokoro_gifu_001_15 モンペの話_0003)
- (3) 一回お金を集めに回ったけど集まらなんだ。(1983_tokoro_gifu_001_14-2 本堂建立の時の寄付の話_0004)
- (4) 薪ばかりどんどんくべて(燃やして)も焼けないから、最後は棺を叩いて割って、割らんだら焼けないから、転がしながら焼いたもんだ。
(1983_tokoro_gifu_001_16 お墓について_0015)

これとは別に、否定辞「セン」「センカッタ」「セナンダ」も使われている。これは表 1 には含まれない。ただし、美濃方言では当該形式は使用される。

- (5) ちょっとも履いたことはあらせん。1983_tokoro_gifu_001_15 モンペの話_0009)

- (6) おとっさんは、ほとんど冬の間、子供の話はせんかったそうじゃ。
(1983_tokoro_gifu_001_2 奉公の話_0007)
- (7) そうじゃ、病院はあらせなんだから。(1983_tokoro_gifu_001_1 入植当時の話_0060)

3.2. 尊敬

尊敬については、朝日(2019, 2021)でも報告した通り、「サル」は常呂町岐阜方言で使用されている。

- (8) 先生がおんさった。(朝日 2019)
- (9) 校長先生が手紙を書きんさる。(朝日 2019)

資料からこの「サル」については、(10) (11) のように、「テイル」(または「トル」)の「イル」に「サル」を使用する例が認められた。これは表 1 には見られない言い方である。

- (10) 「北海道は土地も良く広い広いところじゃそうなで、皆で行って一旗挙げてこまいか」と言ったのが緑で、「そんなら私たも私たも一緒に行く」と言って、まっまっおんさったそうじゃ (1983_tokoro_gifu_001_1 入植当時の話_0004)
- (11) ひっくり返るやら、切り込むやら、おうじょうこいと、よう言っとんさった。(1983_tokoro_gifu_001_6 雑穀運搬の話_0019)
- (12) よその人は燃やしてしまとんさるが、わしんどこはまだ恥ずかしいがあるがね。(1983_tokoro_gifu_001_1 入植当時の話_0089)

これ以外にも、資料を見ると、尊敬を表す語形が確認できる。

「セル」敬語

- (13) その書類がないかと総代の山田さん・国枝さんが言わっせる。
(1983_tokoro_gifu_001_14-2 本堂建立の時の寄付の話_0006)
- (14) 母親が唄わっせるで、歌を唄うと力が出るで、もっと唄えと言われ挽いた。
(1983_tokoro_gifu_001_岐阜県民謡「おばば節」の話_0011)

「ス」敬語

- (15) わしも喜太松さんが調べにきていかしたと聞いとる。(1983_tokoro_gifu_001_1 入植当時の話_0008)

(16) 内藤儀八さんどこで自分の馬を死なかして、ここの家の鹿毛(馬)を借りていつて死なかして (1983_tokoro_gifu_001_7 馬頭さんについて_0007)

「ハル」敬語

(16) お婆さんは難儀しなはったわえ。(1983_tokoro_gifu_001_1 入植当時の話_0043)

(17) 親は本当に苦勞しなはったね。(1983_tokoro_gifu_001_11 水浸いた時の話_0023)

「ゴザル」敬語

(18) その時、藤橋のおじさん一家がうちへ避難してきて、馬を 3、4 頭連れてござって (1983_tokoro_gifu_001_11 水浸いた時の話_0007)

(19) その後、藤橋のおじさんが皆でござらして、「何ぼかお米が穫れたから」と、お礼にお米をもらった。(1983_tokoro_gifu_001_11 水浸いた時の話_0008)

「ミエル」敬語

(20) 阿弥陀さんが入ってみえる「おみずし」(御厨子) ね。(1983_tokoro_gifu_001_14-1 裁縫習いに行った時の話_0020)

「ナサル」敬語

(21) そうしたら、皆に喋ったと怒られて、とうとう最後に首を吊って死んでしまいなさった (1983_tokoro_gifu_001_19 樽入れの話_0006)

上の例文(13)から(20)に見るように、資料「サル敬語」のみならず、「セル」「ス」「ハル」「ゴザル」「ミエル」も使用していたことがわかる。常呂町岐阜方言の郷里方言である西美濃方言においても特に周辺部で使用が認められる(下野 1997) ことと関係がありそうである。また、「サル」敬語において、補助動詞「テイル」に使用される例は、2018 年調査では認められないものである。話者の世代が異なることにより、使用される敬語形式のバラエティが異なることが言えよう。

3.3. 継続「トル」

次に、アスペクト形式を取り上げる。表 1 から継続を表す場合には「トル」が使用されるとされた。この形式を資料から見ると、多くの例が見出せた。なお、例文(10)のように「テイル」も使用される。

(22) 何にも言わっせなんだが、毎日おとっさんたも心配しとった。
(1983_tokoro_gifu_001_2 奉公の話_0010)

(23) お婆さんは、姉妹だから話しとったんだね。(1983_tokoro_gifu_001_9 ヘンビ(蛇)の話_0045)

(24) 何せ珍しかったわえ、親の言うままに結婚しとった頃じゃから。

(1983_tokoro_gifu_001_13 差別用語の話_0002)

また、「ヨッタ」の使用も 1 例認められた。これは動作の習慣的な動作を表すものである。この用法は少なくとも名古屋市方言では使用されることは確認できている。この資料には非過去形は観察されない。

(25) 梅がよう言いよったが、アサ婆さんの前の婆さんの時に、あぁスミさといって、

うちのお婆さんの妹だった。(1983_tokoro_gifu_001_9 ヘンピ (蛇) の話_0038)

3.3. 指定辞

指定辞については、表 1 から「ジャ」が使用されることがわかる。資料からも「ジャ」の使用が認められた。

(26) 5 線の 7 号の角じゃろう、少し一戸分くらいあるじゃろう、そこに永作さんを入れたが、頭がおかしくなって内地に帰した。(1983_tokoro_gifu_001_1 入植当時の話_0017)

(27) 「どうしたら良いじゃろう」と、うちへ泣いて相談に来た。

(1983_tokoro_gifu_001_19 樽入れの話_0011)

(28) おまはん (お前さん)、どんな暮らししていたか知らんが、寂しい辛い思いをしたんじゃろう。(1983_tokoro_gifu_001_2 奉公の話_0003)

なお、この資料には指定辞「だ」も使用されるケースも少なくない。

(29) そう代さんは正直で真面目な人だったから、巡査も目をつけたんじゃろう。

(1983_tokoro_gifu_001_19 樽入れの話_0004)

本資料が刊行物であるため、どこまで話し言葉を忠実に再現しているかは不明である。なお、岐阜県方言で主流となっている指定辞「ヤ」の使用は認められなかった。

4. まとめと今後の課題

本発表では、これまで発表者が 2018 年に現地で 1940 年代生まれの話者に行った調査で得られた活用体系のデータを出発点とし、この話者より生年が 40 年前の話者による口述資料に見られる方言形を提示した。生年が異なることにより、より古い時代における常呂

町岐阜方言の特徴が観察されることが明らかとなった。発表者が実施した調査の対象者は 4 世であり、本発表で扱った資料は 2 世である。一般に北海道に移住した世代の個人差は最も顕著であり、それが 2 世、3 世になるにつれて北海道共通語化が進むとされる(小野 1978)。本発表で取り上げた資料は 4 世を対象にした調査で得られた特徴よりも、より多くの形式が使用される、つまり北海道方言の形成過程のある段階まで観察されたものと言えよう。

今後の課題は少なくない。この資料を作成する上で収集された録音資料の存在を明らかにすることがまず最初の課題としてあげられる。すでに現地の郷土史研究会のメンバーへの連絡は済ませており、現存していない可能性の方が高い。録音資料が見つかった時点でこの資料の書き起こしの精度を上げたい。

また、北海道教育大学旭川分校による現地調査の録音資料のうち、岐阜地区の話者については全て書き起こしをおこなっている。この書き起こしを使った分析もおこなってきたい。

もちろん、新型コロナ感染症が収束することにより、現地調査が実施可能となったら、現地での話者への聞き取りを本格化させることも大きな課題である。本発表がその聞き取りを行うきっかけとなったことはいうまでもない。

参考文献

- 朝日祥之 (2021) 「北海道北見市常呂町岐阜方言」小西いずみ・日高水穂 (編) 『全国方言文法辞典資料集 (7) 活用体系 (5)』方言文法研究会
- 朝日祥之 (2020) 「北見市常呂町岐阜における敬語法について」 『北海道方言研究会報』 96 号, 10-13.
- 朝日祥之 (2014) 「北海道北見市常呂町における方言接触と変容: 岐阜地区居住者を中心に」 『北海道方言研究会会報』 91 号
- Asahi, Yoshiyuki (2015) Interface between regional and social dialects in Hokkaido: The case of the small town of Tokoro. *Multilingual Perspectives in Geolinguistics*. pp.62-68.
- 小野米一 (1978) 「移住と言語変容」 『岩波講座日本語別巻 日本語研究の周辺』
- 下野雅昭 (1997) 『岐阜県の言葉』 明治書院
- 林不二夫 (編) (2002) 『常呂町の昔話 2』 常呂町郷土研究同好会

¹ 本発表は、科学研究費補助金 (15K02586, 19K00639, 26244024) を受けて実施した調査研究の一部である。